

## 令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書作成要領

事業実施後は、次の実施報告書を国際交流チームに提出してください。

- 1) 様式2-1 実施報告書（学内版）
- 2) 様式2-2 事業の取組結果
- 3) 様式2-3 事業に係る経費執行結果
- 4) 様式2-4-J 実施報告書（一般公開：日本語版）
- 5) 様式2-4-E 実施報告書（一般公開：英語版）

## 令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：国際交流センター

---

事業担当者の職・氏名：栗田 聡子

---

内線電話番号：9203

電子メール：skurita@cie.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

コロナ禍におけるオンライン海外研修の参加費用に対する助成

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

## 4. 事業の取組結果

以下の事項について記述してください。ページ数は問いません。

## (1) 事業概要

この事業の目的は、海外留学を希望する学生を対象に、海外の協定大学（および大学付属語学センター）が1年を通じて実施したオンライン語学研修プログラムを案内し、参加費に対して助成することであった。7つのプログラムに対して、29名の学生が参加し、うち12名が本事業による支援金（各参加者に1万円）を受けた。

## (2) 事業の背景・これまでの実績

コロナ禍により大学の国際教育交流に向けた取り組みは大きな影響を受けている。だが、その一方で、デジタル技術を活用した新しい学修形態は、家計の状況や障がい等による学生間の格差を是正するなど有効性が顕在化してきたことで、国大協・文科省共にオンラインを用いた国際教育に注目し、奨励している。

## (3) 事業実施結果

参加者：29名（うち支援金使用：12名）\*17名は自己負担なし。

## A. Online 夏期海外研修

参加者：計19名（5プログラム）

うち支援金使用：11名

## ■5/21 Online 説明会開催

交換留学経験者：有馬大智さん（中国の雲南大学へ留学）人文学部 2020年卒業

参加者：約60名

## ■6/4 Online 説明会開催(英語プログラムのみ)

参加者：約15名

## ①高雄師範大学（台湾国立） 夏季中国語無料オンラインコース

日程：6/14（月）～8/13（金）10:00～12:00（2h×18回）

授業：中国語 費用：無料 現地学生との交流：なし

	所属	学年	自己負担	レベル
1	人文	4	無料	初級
2	地域イノバ	M1	無料	初級

## ②東国大学校（韓国私立） International Summer School (Korean Pop Culture)

日程：7/5（月）～ 7/19（月） 韓国語 plus 文化プログラム（e.g. Korean films）

各 3.5h × 11回

授業：韓国語 費用：無料 現地学生との交流：なし

	所属	学年	自己負担	レベル
1	工	M2	無料	不明

③梨花女子大学（韓国私立） Gateway to Korea Session 2

日程：8/9（月）～8/27（金） 9:00-11:30（語学）

授業：韓国語 2.5h×15回 plus 特別講義 e.g. K-pop Dance, Gender equality in Korea

参加：8名（うち奨学金5名） 現地学生との交流：なし

	所属	学年	奨学金等	自己負担	レベル
1	人文	1	奨学金（梨花女）	無料	Basic
2	人文	1	支援金（本学）	約5万	Intermediate
3	人文	1	奨学金（梨花女）	無料	Advanced
4	人文	4	支援金（本学）	約5万	Basic
5	人文	4	奨学金（梨花女）	無料	Intermediate
6	教育	4	奨学金（梨花女）	無料	Basic
7	医	1	支援金（本学）	約5万	Basic
8	医	3	奨学金（梨花女）	無料	Basic

④ワイカト大学パスイェイズカレッジ（ニュージーランド国立） \*皇學館大学の協定校

参加：3名（うち支援金2名）

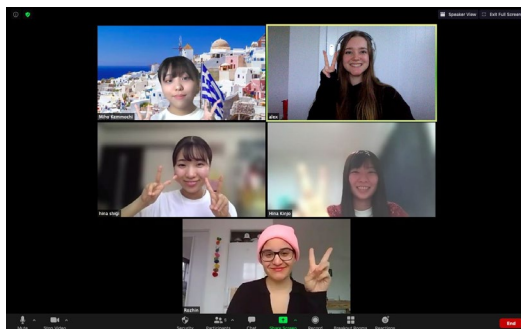
日程：8/9（月）～9/17（金） \*1週間～6週間の間で受講期間を選択可能

授業：2.5h/day（9:30～15:00）

費用：1週間 29,570円 \*4週間受講で5週目の授業料が無料

現地学生との交流：1週間に1回（2週目以降）

	所属	学年	奨学金等	自己負担	期間	レベル
1	人文	1	支援金（本学）	約12万	4週間	Intermediate
2	人文	2	支援金（本学）	約6万	2週間	Intermediate
3	人文	4	なし（辞退）	約6万	2週間	Basic



ワイカト大学生との交流会

⑤ノースカロライナ大学ウィルミントン（UNCW） 米国州立

参加：5名（うち支援金5名全員） 英語レベル：中級者（TOEIC600程度）

日程：8/20（金）～9/17（金） 4週間 授業：約2h（8:00-8:50, 9:00-9:50）×36回

3つの内容：(1) Integrated Skill (2) American Culture (3) Professional Communication

参加費用：\$650（約7.2万円） \*当初\$1000から交渉で減額

現地学生との交流会：計3回

	学部	学年	奨学金等	自己負担額
1	人文	1年生	支援金(本学)	6.2万円
2	人文	4年生	支援金(本学)	約6万円
3	医	1年生	支援金(本学)	約6万円
4	生資	1年生	支援金(本学)	約6万円
5	工	3年生	支援金(本学)	約6万円

### B. Online 秋期海外研修プログラム

参加者：計2名（うち支援金使用 0名）

①高雄師範大学（台湾国立） 中国語無料オンラインコース

日程：9/7（火）～10/8（金）

授業：中国語 費用：無料

	所属	学年	自己負担	レベル
1	生資	1年生	無料	初級
2	人文	4年生	無料	初級

### C. Online 冬・春期海外研修プログラム

参加者：計8名（うち支援金使用 2名）

■11/5 説明会開催

①国立高雄師範大学（台湾） 冬期中国語無料オンラインコース

日程：12/14（火）～1/21（金）

授業：中国語 費用：無料

	所属	学年	自己負担	レベル
1	工	3	無料	初級
2	人文	4	無料	初級
3	教育	M2	無料	初級

②南台科技大学（台湾）

	学部	学年	奨学金等	自己負担額
1	人文	3年生	無料プログラム	無料
2	人文	2年生	無料プログラム	無料

冬期  
春期

③米国州立：ノースカロライナ大学ウィルミントン (UNCW)

	学部	学年	奨学金等	自己負担額
1	人文	2年生	支援金(本学)	8万円

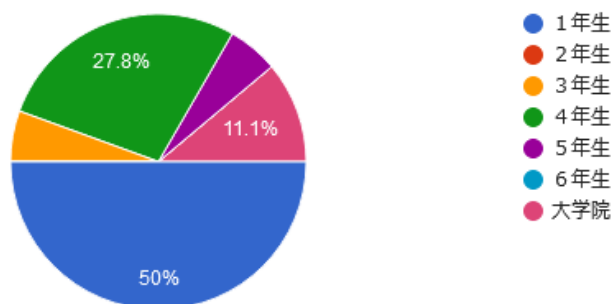
④中山大学（台湾）

	学部	学年	奨学金等	自己負担額
1	人文M	2年生	支援金(本学)	1万円

■ プログラム参加後アンケート（夏期 N=18）

学年等についてお答えください。

18 件の回答



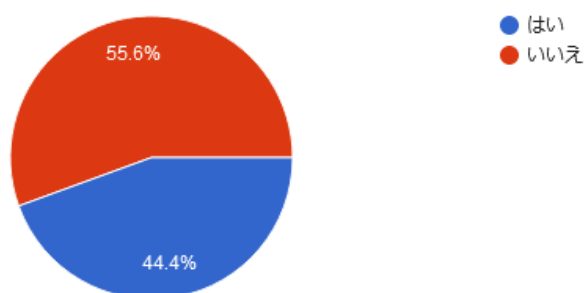
参加されたプログラムはどれですか？

18 件の回答



授業を奨学金を得て無料で参加しましたか？

18 件の回答



Q. クラスの人数は何人でしたか？

3~7名 (回答 2名)

9人 (回答 1名)

11人 (回答 2名)

14人 (回答 2名)

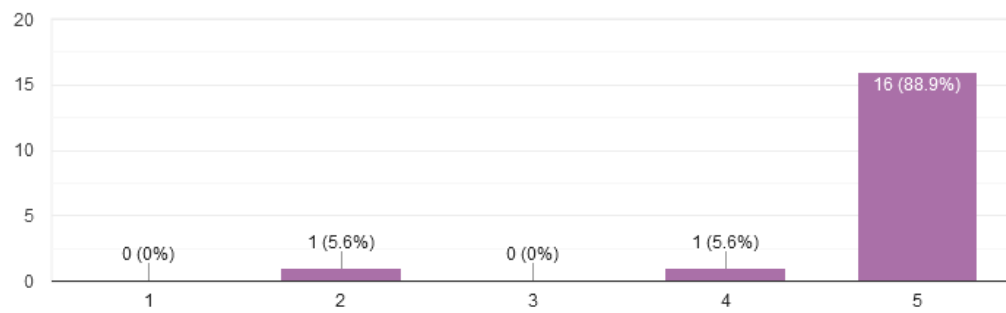
15人 (回答 6名)

16人 (回答 1名)

17人 (回答 3名)

全体的に、参加して良かったと思いますか？

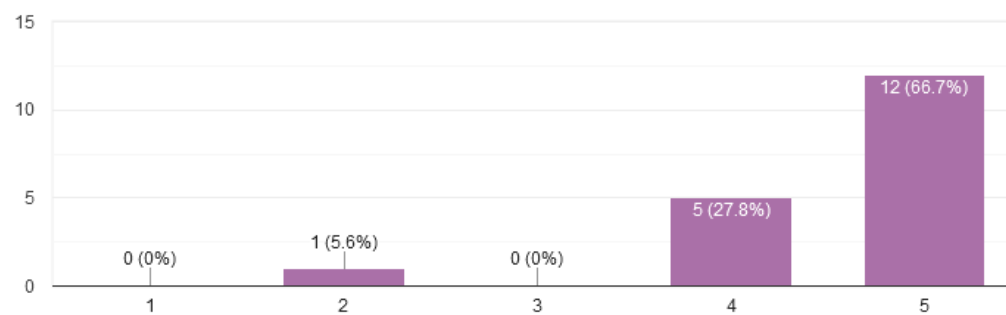
18件の回答



全体的に、授業の質に、満足していますか？



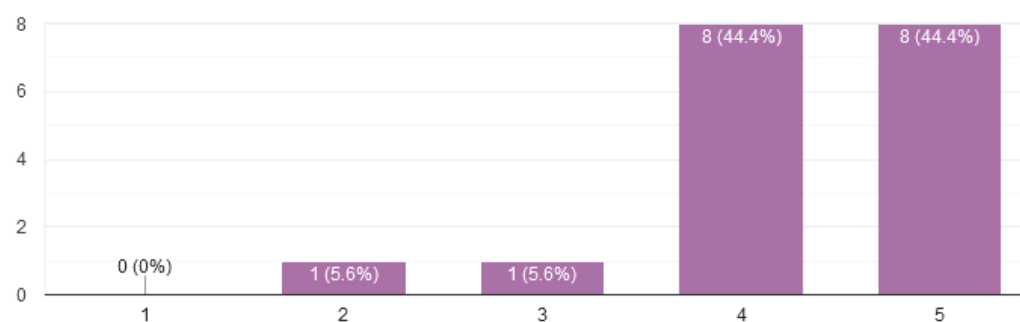
18件の回答



受講する前の期待よりも、良かったですか？

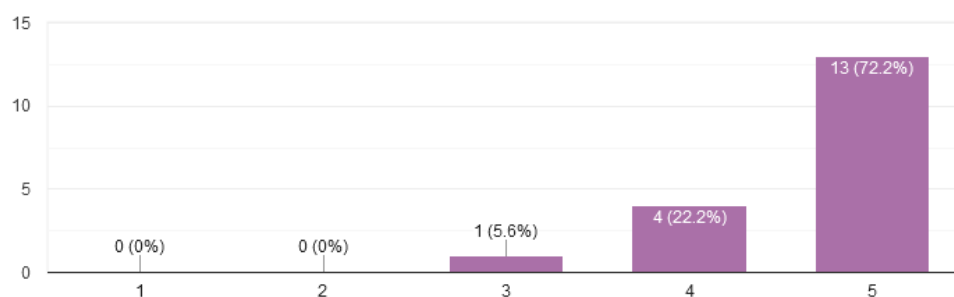


18件の回答



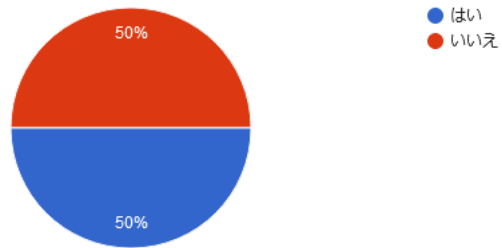
全体的に、授業に参加するのは楽しかったですか？

18件の回答



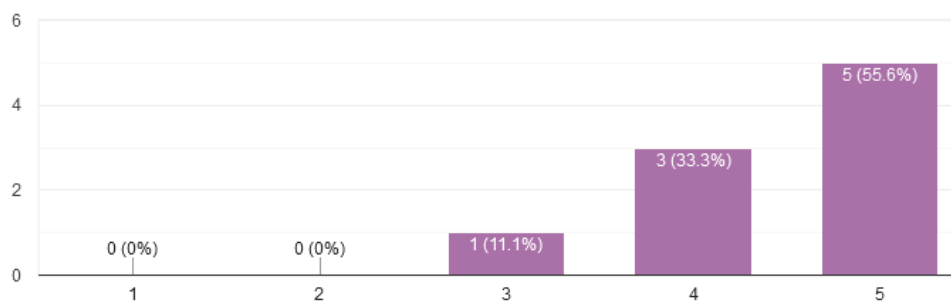
開催した大学の学生とは、交流する機会がありましたか？

18 件の回答



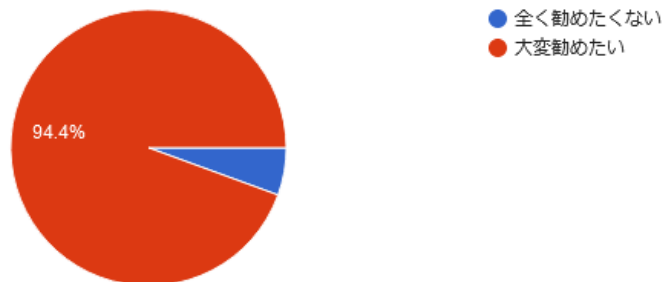
開催した大学の学生と交流した経験は、楽しかったですか？

9 件の回答



あなたが参加したプログラムを、他の学生に勧めたいですか？

18 件の回答



開催した大学の学生との交流について、感想をお書きください。

9件の回答

フレンドリーに接してくれた。事前に企画を練ってくれていて、会話の話題に困らなかった。

英語力が不十分であまり話せなかったが、もっと英語を話せるようになろうと感じるきっかけになった。

日本とニュージーランドで食べられている朝食の違いや行きたい場所・おすすめの場所等を話し合った。興味深い話が聞けて良かった。

交流するというよりは、ペアワークで話す程度でした

Language partnerの制度で現地の学生と週1回zoomで会話しています。現地の状況や文化を知ることができて楽しかったです。

英語でのディスカッションができたのがよかったです。

ほとんどが日本の学生だったが、韓国を好きな人たちが集まってきているので、話があって楽しかった。

あまり関わることは出来ませんでしたが、少しお話しすることが出来て楽しかったです。

その他、何かごコメント等ありましたら、お書きください（wordファイルの方に書いていただいても結構です）

5件の回答

初学者向けだと聞いていましたが、全部中国語で始まって驚きました。しかし自分にとって、それが想像以上に耳を慣らすトレーニングとなり、中国語レベルアップにも繋がりました。

授業参加者は最初は他大学も含めて5人以上は参加していましたが、最後は3人となり、脱落者が多くなった？印象です。人数が少ない分、授業内での会話量も増えて、自分にはよい機会となりました。

個人的にはもう少し受講者同士で交流を図りたかったのですが、オンラインですし、仕方ないですね。

奨学金申請のお手伝いありがとうございました。

非常に良い経験ができました。英語をしゃべることに自信ができました。このような機会を準備して頂き、誠にありがとうございました。

冬にもあるなら参加したいなと思いました。ただ、クラスによるかもしれませんが、他の生徒と密に交流できなかったのは心残りです

開催校との連絡を密に取って、生徒が円滑に手続きできるようサポートしてほしい。（送金や教科書購入など）

#### (4) 事業の意義

コロナ禍は教育に大打撃を与えた一方で、国際教育に関してはオンラインの利便性を最大限に活かせる語学研修は費用も安く、多くの学生にとって非常に意義があるものであることがわかった。アンケートの結果から、参加学生の満足度が予想以上に高く、オンラインではあっても、語学研修だけでなく、海外大学の学生や海外から履修している他の参加者との交流を大いに楽しんでいたことがわかる。また、NHK ナビゲーション「新たな学びを切り開け!～ポストコロナの学生生活～」(11/19/2021)では、センターが紹介したオンライン海外プログラム(無料:高雄師範大学)に参加した院生が「オンライン留学」に挑戦したことが紹介された。

#### (5) 事業の発展性

ニューノーマルの時代では、コロナが収束していてもオンライン海外研修は存続するべきであると議論されており、実際に実施者もそう考えている。「一人も取り残さない」という理念にも合致するオンラインでの海外留学。実際に海外に赴く海外留学とは全く異なる形ではあるが、オンライン海外研修は費用と時間を節約でき、障がいがあっても参加できる点で優れている。今後、協定大学を中心に、東南アジアや北欧を含めた大学が提供している多様なプログラムを紹介していく必要があるだろう。また、オンラインと実際の海外研修を組み合わせたプログラムがスタンダードになると予測される。

#### (6) 中期目標・中期計画における位置づけ

本事業は、中期目標の一つである「世界で活躍できるグローバル人材の育成」に直結した内容である。コロナ禍のため留学が困難な状況にある中、海外留学を希望している学生に対して、代替プログラムとして本事業を実施した。

## 令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

コロナ禍により大学の国際教育交流に向けた取り組みは大きな影響を受けている。だが、その一方で、デジタル技術を活用した新しい学修形態は、家計の状況や障がい等による学生間の格差を是正するなど有効性が顕在化してきたことで、オンラインを用いた国際教育が奨励されるようになった。

この事業の目的は、海外留学を希望する学生を対象に、海外の協定大学（および大学付属語学センター）が1年を通じて実施したオンライン語学研修プログラムを案内し、参加費に対して助成することであった。7つのプログラムに対して、22名の学生が参加し、うち13名が本事業による支援金（各参加者に1万円）を受けた。

参加後のアンケートの結果から、参加学生の満足度が予想以上に高く、オンラインではあっても、語学研修だけでなく、海外大学の学生や海外から履修している他の参加者との交流を大いに楽しんでいただいていたことがわかる。また、NHK ナビゲーション「新たな学びを切り開け!～ポストコロナの学生生活～」(11/19/2021)では、センターが紹介したオンライン海外プログラム（無料：高雄師範大学）に参加した院生が「オンライン留学」に挑戦したことが紹介された。

ニューノーマルの時代では、コロナが収束していてもオンライン海外研修は存続するべきであると議論されており、実際に実施者もそう考えている。「一人も取り残さない」という理念にも合致するオンラインでの海外留学。実際に海外に赴く海外留学とは全く異なる形ではあるが、オンライン海外研修は費用と時間を節約でき、障がいがあっても参加できる点で優れている。今後、協定大学を中心に、東南アジアや北欧を含めた大学が提供している多様なプログラムを紹介していく必要があるだろう。また、オンラインと実際の海外研修を組み合わせたプログラムがスタンダードになると予測される。

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

The Corona disaster has had a major impact on universities' efforts to promote international educational exchange. At the same time, however, new forms of study using digital technology have become increasingly effective in correcting disparities among students due to family financial status, disabilities, and other factors, and online-based international education is now being encouraged.

The purpose of this project was to provide information on online language training programs offered by partner universities (and university-affiliated language centers) throughout the year for students who wished to study abroad, and to subsidize the participation fees. 22 students participated in 7 programs and Thirteen of them received support from the project (10,000 yen for each participant).

The results of the post-participation questionnaire show that the satisfaction level of the participating students was higher than expected, indicating that they greatly enjoyed not only the language training but also the interaction with students from overseas universities and other participants taking courses from abroad, even if online. In addition, the NHK Navigation "Open Up a New Learning Experience! ~Student Life in Post-Colonial Japan~" (11/19/2021) introduced graduate students who participated in an online overseas program (free of charge: Kaohsiung Normal University) introduced by the CIER.

In the era of the New Normal, it is argued that online study abroad programs should continue to exist even if the corona is terminated, and indeed the implementers believe so. Online study abroad is also in line with the philosophy of "no one is left behind." Although it is a completely different form of study abroad from actually going abroad, online overseas training is superior in that it saves money and time, and allows participation even by those with disabilities. In the future, it will be necessary to introduce a variety of programs offered by partner universities, including those in Southeast Asia and Scandinavia. It is also anticipated that programs combining online and actual overseas training will become the standard.